

部品 用品 整備

最新動向

テクノレーダー

13

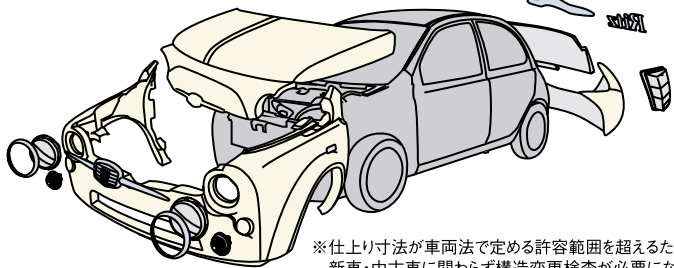
レトロ風ボディキット

より普遍的ニーズを追うカスタマイズのあり方が見えた！

FRP製ボディはすべてボルトオンで装着ができる。特別な加工が不要なため、技術面の敷居は低い。バックドア部分はオリジナルパーツの上にかぶせる仕組みになっている。



●主な構成パーツ



※仕上り寸法が車両法で定める許容範囲を超えるため、新車・中古車に関わらず構造変更検査が必要になる。

“普遍的”なカスタマイズが新しい！

90年代に入った頃から、現行の車両をベースにしてレトロ風デザインを際立たせたクルマが、軽自動車メーカーを中心に続々と登場したのは記憶に新しい。

こうしたクルマはマニア層だけでなく、クルマに親しみやすさを求める女性などにも受け入れられ、新しい市場を開拓したといえよう。

このような中、アフターマーケットにおいても昔懐かしい名車のボディラインをモチーフにした「レトロ風ボディキット」が増えつつある。

ベースとなる車両は軽自動車から小型乗用車、高級欧州車までと実に幅広く、オンリーワンの本格カスタム志向から、レトロな雰囲気を味わい

たい普遍的ニーズまで対応しているようだ。

本項で紹介するタイプは日産「マーチ」(AK12、BNK12)をベースに、今なお根強いファンが多い「フィアット500」風デザインへと生まれ変わるのをウリとしている。このキットはFRP製のフェンダーやボンネット、バンパーを車両側のもとのボルトオン交換するだけなので、技術的な面の敷居はととも低い(別途、塗装が必要)。

ベース車両のモデルチェンジサイクルを考えると息の長い販売が見込める上、キット装着を機に全塗装し中古車の商品力を高めることもできる。

販売元では、整備工場や板金工場を対象にキット販売店を募集している。契約に当たっては、キットを1セット購入・装着したデモカーを店頭で展示することが同意事項に挙げられている。